



# 鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## イエスの言葉

『わたしが行って、いやしてあげよう』

聖書(マタイ福音書8章7節)

牧師 河合裕志

イエスがガリラヤ湖北岸のカファルナウムの町に入ると、一人の百人隊長が近づいて来て懇願した。「主よ、わたしの僕が中風で家に寝込んで、ひどく苦しんでいます」。するとイエスは『わたしが行って、いやしてあげよう』とスンナリと言った。

スンナリと。だって相手はローマ人、異邦人。そんな者の家に入れば汚れるとイスラエル人なら皆んなそう思っていた。しかしイエスは固定観念にとらわれていなかったよう。平気でそう言った。

なぜそう言えた？①この隊長が僕をいたく気遣う思いに感じたから。僕、場合によっては奴隷は病気になれば捨てられることが少なくなかった。しかし隊長は捨てようとしなかった。②このひどく苦しんでいる僕を早くいやしてあげたかったから。イエスにとっては誰であれ、これをうっちゃっておくことはできなかった。③全ての人間はイエスにとっては神による被造物として映っていたから。ローマ人も僕も神の似姿として造られた尊い存在であることに変わりはない。イスラエル人だけが尊い、清いということはない。

④間に立つ人の信仰や願いをイエスは広い心をもって受入れるから。隊長はイエスへの信仰を持っていた。イエスならいやせ

ると信じて来た。しかし僕は信仰を持っているのかは不明。でもイエスは隊長の信仰をよしとして僕をいやそうとする。基本はイエスと私の関係だけれど場合によってはそうではないこともあるということ。イエスは寛大。私の信仰・願いに注目して私の親しい者にいやしを救いを与えてくれる。願い通りにいかないこともあるがこれはイエスの心に任せる他はない。

さて以上のようなことからイエスはスンナリと『わたしが行って、いやしてあげよう』と言ったのだが、どうも隊長の方がスンナリとは行かなかった。「主よ、わたしはあなたを自分の屋根の下にお迎えできるような者ではありません。ただ、ひと言おっしゃってください。そうすれば、わたしの僕はいやされます」。

隊長の方がずいぶんと気を遣っている。私は異邦人、あなたに汚れが及んではなりません、と。それじゃどのようにしていやしは可能となる？この点隊長はすごいことを言った。ここでひと言、言ってくれればいやされると。これにはイエスは深く感動。『イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰をみたことがない』。このようにして僕はいやされることに。イエスの制限のない愛を見る。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時